

ブランド雑学 ――ブランドの由来――

私たちは、日常の買い物で種々のブランドに接していますが、このブランドの名前はどこからきたの、この名前には何か意味あるの、とか気にされたことはありませんか。筆者は、長年、商標の世界に身を置いたことで、そのブランドの由来が気になることが多々あります。ここ半年間、コロナウイルスのニュースや自粛生活やらでうんざりの毎日ですが、気晴らしに皆様お馴染みのブランドの由来を以下、紹介します。皆様のお仕事には直接、参考にはなりません、雑学としてご一読、話のネタにしてもらえれば幸いです。

まずは、ブランドの由来としてよくあるパターンの創業者の名前に因んだものから

- ・「**ブリヂストン**」:ご存知、創業者の姓の「石橋」を英語風にもじった「ブリッジ・ストーン」(BRIDGESTONE)ですね。そのままの「ストーン・ブリッジ」(Stone-Bridge)では語呂がよくないことから並び換えたとか。
- ・「**サントリー**」:ご存知、これも創業者の鳥井氏に因んでいますね。同社がウイスキーに進出した際、当時ヒット商品であった赤玉ポートワインの「赤玉」を太陽(SUN)に見立て、鳥井氏の姓をつなげて「サントリー」(SUNTORY)と名付けられた。
- ・「**紀文**」:米屋の創業から海産物卸売りを経て開業した「紀伊國屋果物店」の店名と創業者保芦邦人氏の奥様のお名前「文子」の「文」を組み合わせとか。早くから蒲鉾が主流なのに社名は「果物」の店名から、でも、江戸時代の紀州ミカンで有名な豪商「紀伊國屋文左衛門」とは全く関係なし。
- ・「**ヨネックス**」:創業者の姓の「米山」(ヨネヤマ)という名称が外国人にとって発音しづらい音であるため「ヨネヤマ」の「ヨネ」(YONE)に未来の可能性を表す意味で「X」(エックス)を付けて「YONEX」が造られたとか。
- ・「**伊勢丹**」:創業者の小菅丹治氏が養子に入られた米穀商の「伊勢又」から独立し、「伊勢屋丹治呉服店」を創業。「伊勢丹」は、この「伊勢屋丹治呉服店」の略称。
- ・「**丸井**」:創業者は丸井氏かと思いきや、創業者は青井氏。創業が「丸二商会」からのれん分けして始まったこと、当時は「丸」という漢字に自分の名前をつけると繁盛するというジンクスがあったことから、青井氏の「井」で「丸井」としたとか。
- ・「**コメリ**」:創業者捧寅七氏が米穀商を創業した際、この「米」と捧(ささげ)家の屋号であった「利右衛門」の「利」から「米利商店」と名付けられた。

ところで、「屋号」は、武士以外には苗字を名乗ることができなかった時代に使用された出身元の「家」(一族)を示すための名称で、主に農家や商家等で使用されました。明治維新後はそのまま苗字になったり、お店の名前(商号)に採用されました。

次に、起業の理念等に合致したことから既存の言葉等を採用した例

- ・「**資生堂**」:中国の古典『易経』の一節の「至哉坤元 萬物資生」(至れるかな坤元(こんげん)、万物資(と)りて生ず)の「資生」に由来。意味は「至哉坤元:大地の徳はなんと素晴らしいものであるか。萬物資生:全てのものはここから生まれる。」。西洋の最先端の薬学をベースに興す一方で、社名は東洋哲学から命名するという、西洋の科学と東洋の叡智を融合するとの想いから採用したようです。
- ・「**ゲンゼ**」:創業地の京都・何鹿郡(現:京都府綾部市)の発展のために農家に養蚕を奨励することが郡の急務とあるとして「郡是」(群の方針の意味。国でいえば「国是」に相当)の語を採用。
- ・「**コクヨ**」:創業者黒田善太郎氏の「故郷 富山(越中国)の誉れになる」という誓いや思いから採用した「国誉」に由来。
- ・「**日清食品**」:「日々清らかに豊かな味をつくる」との創業者の安藤百福氏の願いから「日清」が採用された。
- ・「**パーミヤン**」:「パーミヤン」はシルクロードの中心地にあったアフガニスタンの古い都市の名前。東洋と西洋の文化の交流のシルクロードにある都市として栄えていたことから、「世界をクロスオーバーさせた新しい中華料理を届けたい」という思いを込めて採用された。

- ・「**Pasco**」(敷島製パン) : 「Pasco」は、「Pan Shikishima Company (パン・シキシマ・カンパニー)」の頭文字を取って作られた造語です。会社名の「敷島製パン」の「敷島」は、本居宣長の有名な「敷島の大和心を人とはば朝日に匂う山桜花」の和歌に由来。「敷島の」は「大和」にかかる枕詞で、「広く日本にパン食を普及させたい」という創業時の思いが込められているようです。
- ・「**バンダイ**」(BANDAI) : 古代中国の兵法書「六韜」(りくとう)の中にある「萬代不易」(いつまでも変わらないという意味)の「萬代」に由来し、「いつの世も人の心を満たす物を作り、絶えない企業の発展を願う」という意味が込められているようです。
- ・「**ワコール**」(WACOAL) : 創業時の社名「和江商事」の「和江」は創業者の出身地の近江の古い呼び名である「江州」に因み、「江州に和す」という思いから作られた語。これに「『和江』の名を永遠に留める」の意味での「和江留」から「ワコール」が生まれた。

ブランドには外国語由来が多いですが、外国語をそのまま採用したものとして

- ・「**ブラザー**」(BROTHER) : 兄弟で創業した時代の社名「安井ミシン兄弟商会」から商品ブランドに「BROTHER」を採用。
- ・「**シャープ**」(SHARP) : 「鋭い、とがった」の英語「sharp」そのままですが、創業者の早川徳治氏が開発した「早川式繰出鉛筆」、即ち、「エバーレディー・シャープ・ペンシル」(「いつでも用意されている尖った鉛筆の意味)という商品名に採用、その略称「シャープ・ペンシル」から社名に採用。この略称は今や日本語として定着(但し、日本でしか通じない和声英語)。
- ・「**イオン**」(AEON) : 「永遠」をあらわすラテン語「aeon」(æon)から採用。
- ・「**ガスト**」(GUSTO) : スペイン語で「おいしい」「味わい」といった意味合いの「GUSTO」。
- ・「**メルカリ**」(mercari) : 英語の「マーケット」(market)の語源であるラテン語「mercari」で「商い」を意味する。
- ・「**デサント**」(DESCENTE) : フランス語で「滑降」の意味を有する「DESCENTE」ですが、スポーツ関連用品のブランドにはぴったりですね。

外国語をそのまま採用するのではなく、複数の外国語の組合せや頭文字等から案出されたものはたくさんあり

- ・「**ソニー**」(SONY) : 「音」の意味合いを有する「SONIC」の語源のラテン語「SONUS」と「小さい」「坊や」を意味する「SONNY」に由来。
- ・「**パナソニック**」(PANASONIC) : 「音」に関連する「SONIC」に、「全ての」を意味する「PAN」を冠して案出された名称。当初、輸出用スピーカーで採用されたものが今や同社の社名に出世。
- ・「**エネオス**」(ENEOS) : 「ENERGY」と「NEOS」(ギリシャ語で「新しい」という意味)という語の組み合わせ。
- ・「**エーユー**」(AU) : Access、Always、Amenityなどの頭文字である「A」と、Unique、Universal、Userなどの頭文字である「U」から構成された造語で、「会う」「合う」にも通ずる。
- ・「**ドコモ**」(DoCoMo) : 「Do Communications Over the Mobile Network」の頭文字に由来。
- ・「**エースコック**」(ACECOCK) : 「一番上手な料理人」の意味合いを持たせて「ACE」と「COCK」の組合せを採用。
- ・「**エステー**」(エステー化学) : 「Service」(奉仕)と「Trust」(信頼)の頭文字を組み合わせた造語で、「最高」の意味合いを有する「Super Top」の頭文字にも通ずる。
- ・「**オートバックス**」(AUTOBACS) : 同社が提供する商品・サービスの名称に関する「Appeal」、「Unique」、「Tire」、「Oil」、「Battery」、「Accessory」、「Car Electronics」、「Service」の各語の頭文字から構成。
- ・「**カルビー**」(Calbee) : カルシウムの「カル」とビタミンB1の「ビー」からの造語。
- ・「**セコム**」(SECOM) : 「Security」(セキュリティ)と「Communication」(コミュニケーション)の語を組み合わせた造語。
- ・「**ノエビア**」(NOEVIR) : スペイン語で恋人を意味する男性名詞「novio」と女性名詞の「novia」から案出された造語。

- ・「**ビオレ**」(Biore)：ギリシャ語の「Bios」(生活)と「Ore」(満ち足りた)を組み合わせで作られた造語で、「満ち足りた(Ore)生活(Bios)」をサポートするといった願いが込められている。
- ・「**フマキラー**」：「蠅」の英語「fly」と「蚊」の英語「mosquito」の頭文字の音「フ・マ」に「殺し屋」の英語「killer」(キラー)を組み合わせた造語。ハエ・カの退治にピッタリ！
- ・「**ベネッセ**」(BENESSE)：ラテン語の「bene」(正しい、良い)と「esse」(生きる、暮らす)を組み合わせた造語で、人々の「よく生きる」を支援するといった意味が込められている。
- ・「**ユニクロ**」(UNIQLO)：「UNIQUE CLOTHING WAREHOUSE」(ユニークな衣類の倉庫)を頭部の文字を組合せたものですが、英字の綴りが「UNICLO」ではなく「UNIQLO」となったのは、香港で合弁会社を設立した際に誤って「C」を「Q」としてしまったのがきっかけでそのまま採用され、「UNIQLO」になったとか。
- ・「**ヤクルト**」(Yakult)：エスペラント語でヨーグルトを意味する「Jahurto」(ヤフルト)から作られた造語。
- ・「**ビエラ**」(VIERA)：「vision」(映像)の「vi」と「era」(時代)を組み合わせた造語。
- ・「**ノクリア**」(nocria)：エアコンの綴り字「air con」を反転した造語。

以下はちょっと変わった由来のあるブランド

- ・「**花王**」：洗濯用が「洗い石鹼」、化粧石鹼が「顔洗い」と呼ばれていたことでその「顔石鹼」から「香王」「華王」「花王」などが検討され、「花王」という文字が選ばれたようです。
- ・「**ZOZOTOWN**」：「想像(SOZO)・創造(SOZO)が行き交う街(TOWN)」からの造語。
- ・「**ピア**」(チケットピア)：「ぴ」と「あ」を組み合わせた語感の良さだけで作られた造語で、既存の言葉のイメージを縛られたくないことで、あえて意味のない言葉を創業時の雑誌名に採用したとか。
- ・「**ちふれ**」：全国地域婦人団体連絡協議会(略称「地婦連」(ちふれん))との提携商品「ちふれ化粧品」に由来。
- ・「**DHC**」：創業時の社名「大学翻訳センター」(Daigaku Honyaku Center)の略で、翻訳事業から化粧品に事業拡大してもこの略称を維持。なお、翻訳関連事業は現在も展開。
- ・「**ロート**」(ROHTO)：「ロート目薬」の処方を手掛けた当時の井上豊太郎博士がドイツ留学時代に師事した恩師、アウグスト・フォン・ロートムント博士の名前から採用されたとか。

最後に、農産物の品種に絡んだブランドから

<以下は品種登録での品種名ではなく、登録商標です。>

- ・「**あまおう**」：「あかい・まるい・おおきい・うまい」の頭文字に由来する。公募で決まったとか。(登録品種名は「福岡 S6 号」)
- ・「**アメーラ**」：このトマトが生まれた静岡の言葉で、「あまいでしょう」の意味。(品種として「桃太郎」の仲間であるが、「桃太郎」は品種登録されていない一般品種)

以上、各ブランドの由来を種々とりとめもなく訪ねてみましたので、長文になりました。もっと面白いブランドも結構あるのですが、この辺りで終了。ブランドの誕生に様々な背景がありますが、それらを紐解くことで、実際のブランド・ネーミング作業でのヒントになりますかね。

なお、上記各ブランドの由来はブランド保有の企業自身のサイトやいろんなブランドの由来を紹介しているサイト(注)での情報を参考にしました。何か興味のあるブランドがありましたら、以下のサイトやそのブランド所有の企業サイトでその由来を探ってみるのも面白いです。

*注： ブランドの由来を紹介しているサイトはいくつかありますが、主に以下を参照しました。

- ・「ブランド・社名・ロゴマーク由来辞典」(URL: <https://www.brand-yurai.net/>)
- ・「由来.jp」(URL: <http://www.yurai.jp/>)

以上

(2020年7月)

〔 弁理士 笹木 幸雄
日本パテントデータサービス株式会社
ブランディング部 顧問 〕